



朝日学園・みつ朝日学園連合PTA広報誌

Trinity

トリニティー

Vol.10
2019



CONTENTS

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1— はじめに・ごあいさつ | 17— 表彰 |
| 2— 学園歌 | 19— インタビューで知る朝日学園 |
| 3— 座談会 | 21— 行事一覧 |
| 5— 幼稚園 | 23— 数字で見る朝日学園 |
| 9— 小学校 | 25— 朝日学園教職員一覧 |
| 13— 中等教育学校 | |



<https://www.asahijuku.ac.jp>

朝日学園

はじめに

「出会いと志によって創られた幼小中高」

夢を持ち、その夢を目標とし目標を達成するために一步一步努力をすること。「夢一途に」子供たちは鳥海学園長の姿に「夢は叶う」ということを身近に感じ夢を叶えるために「志」を持つことの大切さを学んでいます。

2009年に朝日学園・みつ朝日学園連合PTAが発足し、2010年4月28日に幼小中高の三校園がお互いの理解への架け橋として広報誌「Trinity」の第1号が産声をあげました。

発行を重ねるごとに内容も充実し、三校園がぐっと近い存在となりました。この度、第10号が発行されることとなり、あっという間に過ぎてしまった月日が懐かしく、第1号から読み返してみました。

どのページにもキラキラ輝く子供たちの笑顔と丁寧に御指導をしてくださる先生方、そして先生方のご指導のもと、子供たちを見守り支える保護者の姿がありました。あっという間に過ぎてしまったと思っていた月日の中に大切に、見守ってきた子供たちの成長を感じることができた「Trinity」。

第1号誕生から多くの方々のご協力によって三校園の活動の歴史を紡いでこられたことに心より感謝しています。

学園への思いを込めて綴ってきた広報誌Trinity。その思いを恩送りしていけるよう祈念しています。

2019年は、連合PTA発足10周年となります。これを記念して、10月24日(木)AM10:00より、岡山市市民会館にて、講演会を開催します。皆さまお誘い合わせのうえお運びいただきますようご案内申し上げます。

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA会長 万波 信

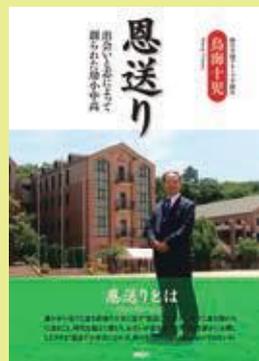
ごあいさつ

学園長 鳥海 十児

トリニティーが発刊から10年、年刊ですから当然のことながら10号の節目となりました。大変おめでとうございます。併せてこれまでの10年間を担当された保護者の方々、それぞれの年の幼稚園・小学校・中等教育学校のPTAの皆さまのご努力に深甚の敬意と感謝を捧げます。ありがとうございました。

私は今年85歳の節目となるのを機会に「恩送り」という書籍を出版し、皆さまに配布させていただきました。当初は学園の各校園の創立の頃を紹介しようと思っていましたが、原稿を書き進めるうちに「私の歩んだ道から、子供たちに夢・目標・志の大切さを知ってもらいたいーそれが子供たちの将来への大きなプラスになる」と思うに至りました。小学校高学年くらいの子供には理解できる内容としました。時期が来ましたらぜひ子供たちに読ませていただければと願っています。

今春には小学校の運動場の国旗掲揚台の横に「建学の精神＝個性を伸ばすハイレベルの教育」の石碑ができます。これからも永く一人ひとりを大切に個性を伸ばすハイレベルの教育の実践をしていきたいと思っています。最後になりましたが、連合PTAや各单位PTA、それにトリニティーがますます充実し、発展されることを大いに期待しています。



「恩送り」ご希望の方は
こちらから

朝日学園歌

「朝日をあびて」

朝日学園連合PTA 作詞
園田 幹子 作曲
金丸めぐみ 編曲

さあ 歩きだそう はるかな道 力いっぱい この瞬間を
ひとりの力 小さくても 手をつなぎ 仲間を信じて

海にむかって とびたつ鳥 はるかかなたに 未来があると
信じる勇気くれたのは ここにいる仲間
ありがとうの気持ちをこめて 自由の空へ とびたて
こころに大きな華を咲かせて すばらしい未来へ すすもう

海にむかって とびたつ鳥 新たな大地に 未来を創る
豊かな知識くれたのは ここにある学びや
ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything

ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything



子供たちが実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます



各校園の園歌・校歌が聴けます

■朝日塾幼稚園 園歌



園児たちが実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾小学校 校歌



児童たちが実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾中等教育学校 校歌



岸田敏志氏が歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

「Trinity Vol.10 発刊記念」座談会

10号発刊を記念し、過去のトリニティーを手に取りながら、
トリニティーの歩みと学園の未来について
鳥海学園長・岡崎園長・斉藤校長・仙田校長に語っていただきました。

平成30年10月16日 朝日塾小学校にて



お気に入りの表紙

鳥海: 9冊のトリニティーを手にしながら一番お気に入りの表紙は…と考えたのですが、結局1つには絞れませんでした。

1号は、創刊の時を思い出しますし、学園歌の「海にむかってとびたつ鳥…」という歌詞の情景にも繋がっているのも、個人的に好きです。

5号は、2歳から高等部までの子供がいて、学園で育つ子供たちの姿がよく表れているので好きです。



そして、もうひとつ9号の八重紅枝垂れ桜と生徒が美しいので好きです。2号の桜の木が大きく成長し、見事な花をつけてくれた写真を見ると、共に育った子供たちに思いを馳せることもあり、感慨深いです。

岡崎: 私も1号が産みの力、PTAさんの努力が表れているのでいいなと思っています。

また表紙を含め編集を幼小中のPTAさんが順番に担当してくださっていて、7号の表紙が幼稚園の担当の時、運動会の演技をやり切った達成感が表れていて好きです。

斉藤: 私も5号がいいと思います。やはり2歳から18歳までの子供たちを学園全体で育て見守っている姿がよく表れていると感じます。

10号の表紙は、幼稚園から高等部の生徒までが揃い7/14に撮影がありました。猛暑の校庭で冬服を着用しての撮影は大変だったと思います。

また、手前みそですが8号が好きですね。「新風わたる丘の上 希望の光さすところ」という校歌の風景と一致して、本校の環境の良さが輝いていると思います。子供たちも校舎もどこに出しても恥ずかしくないと自負しています。

仙田: 中等の校舎もエンタシスの柱が美しく印象的ですが、小学校の建物は本当に立派ですね。表紙については1号がい

いです。創成期を思うと学園歌と一致していて、子供たちが未来に向かって羽ばたいていく姿を象徴しているのかなと思います。

鳥海: 1号の写真は、学園歌の誕生秘話とともに8号にも掲載されています。鳥と海でちょっと恥ずかしい気もしますが、PTAさんはこの写真をよくぞ探されたと思います。

心に残る記事など

鳥海: 一番印象に残った記事は、1号の「創刊にあたって」です。PTAさんが学校や園に協力してくださること、これほどまでに人的・労力面・金銭面も応援していただけるPTAは珍しいと思います。これだけの協力が得られることは、本当に「有り難い」と感謝しています。仕事では、到底やれそうにもない奉仕をしていただいていると日々感謝をしています。

斉藤: そうですね。今年小学校では5年ぶりにバザーが行われました。グリーンホールの舞台上に「すべては子供たちのために」という垂れ幕が掲げられており、その一念で後押しをしていただいていると改めて強く感謝の念を抱きました。



4号から掲載されているレシピコンテストも食育に取り組む基礎となっていますし、通学班保護者会も子供たちの安全安心な通学を学校と共に真剣に考えてくださっている証です。また、教育講演会や化学ショーなど毎年多岐にわたり時間をかけて選択していただき、応援してくださっていることにも感謝しています。

岡崎: 幼稚園では毎年バザーを開催してくださっています。子供が幼くてできないことが多いので、本当にたくさんのお手伝いをしていただいています。マーチングの練習で楽器を運んだり、練習でお借りしている体育館の掃除をしたり、発表会でも常にたくさんのご協力をいただき感謝しています。

VOL.1～VOL.9までの表紙写真を紹介します

Trinity バックナンバーの
取り寄せはこちらから



Vol.1



Vol.2



Vol.3



Vol.4

また、このトリニティーの編集に関わることで、園の課題と努力ポイントを見つけることもあり、ありがたく思っています。

仙田: 5号のマーチングの記事を読んだり、運動会や音楽発表会で子供たちの演技を見せてもらったりすると、子供たちや先生たちの努力と共に、保護者の熱意を強く感じます。そうした中で作っていく人間関係が積み重なり大きな力となり、さらに大きな組織力を生み出しているようにも感じます。



中等では、アツイ保護者の想いがPTAと共におやじの会の発足にもつながり、学校行事だけでなく地域の活動にも本当に良く協力していただいています。

また交通の便が良くない学校なのに卒業生が行事でもない日に学校に顔を出してくれる機会が多くあります。このこともこの学園・学校の特徴だなと感じ微笑ましく思っています。

鳥海: そうですね。私もそれはうれしく思っています。記事としては、1号の「卒業生を囲む会」も感慨深いものがあります。9号で紹介されていましたが「親子で朝日学園」という方も増えてきていますので、卒業生との座談会もいいなと思っています。

岡崎: 私は、9号の図工の研究大会の記事が、幼稚園と小学校と一緒に頑張ったエネルギーが感じられて、印象的です。研究大会を通して子供たちと共に教職員も育ったのは、大きな収穫だったと感じています。それと、3号の30周年も学園全体で取り組んだことで、幼小中が一体となっていたな…と御津スポーツパークに行ったあの日のことを懐かしく思い出します。トリニティーを通して、子供たちの未来を想像したり、成長を振り返って見たりすることができるのは私たちの学園の強みだと思います。

受け継ぐこと・変化すること

鳥海: 今回PHPから出させていただいた『恩送り』に、私の思う「変えてはならないものと時代やニーズに応じて変えていくもの」を書いています。

2065年には、人口は今の4分の3。子供の数は半減します。その中で生き残るためには「納得できる教育内容」「費用

がかかっても行かせたい学校」を考える必要があります。

岡崎: 幼稚園ができた頃は、英語・音楽・絵画・体育などを保育に取り入れ世の中より一歩前に出ていましたが、今は多くの園で取り組むようになり特別なことではなくなりました。朝日学園は、常に時代の先取りをしてきて、子供たちに必要な力をつけるためにゆとり教育にノーを突きつけてきました。今となっては、「脱ゆとり」が叫ばれるようになり、信念を貫いてきたことはやはり正解でしたね。

鳥海: 小泉改革特区で株式会社立中学ができた時には、これから必要な学力を見据えて全国初のディスカッション科をつくりました。これからも社会の動きに敏感であると同時に学園の信念を曲げずに、何を提供するのか、手がかりを見つけて、もう一歩前へ行くには、何が必要なのか考えていかないといけません。

斉藤: 大学の入試改革から見ても、表現科や習熟度別授業などこれまでの方向は間違っていないでしたね。今やっていることをより確かなものにしていくことも大切だと感じています。

仙田: 朝日塾の子供たちは、本当に優しいです。これは、根源的なことで普通のことのように思われますが、実は普通ではなく大きなことだと思います。中身の「しっかりした子供を育てる」ことに力を注ぐことも大事なことです。これからの世の中を生きていく子供たちに、何を身につけさせておくことが必要なことなのかと考えた時に、利他・叡智・剛健の精神は必須条件であり、生き方の柱になることだと思います。

岡崎: 認定こども園が増える中で幼稚園は新たなチャレンジが必要になってきます。教職員と共にこれからの幼稚園は、どうあるべきかと検討しています。



斉藤: 小学校も、働き方改革が推進される中でいかにして教育の質を向上していくか、課題の多い中ですが、外部の力もお借りしながら改革を推進しています。

仙田: 中等は、振り向いてもらえるような努力が必要だと思います。国際バカロレア候補校として新たな歩みを始めますが、まだまだこれからです。今後も子供たちのために各方面のお知恵を拝借しながら、学園の発展に寄与したいと思います。



Vol.5



Vol.6



Vol.7



Vol.8



Vol.9